

iii online 1年間の成果と課題

山内祐平
東京大学大学院
情報学環 助教授

東京大学大学院 情報学環

- 2000年に新設された大学院
- 情報に関わる多様な知の結集
- 研究組織と教育組織の分離
- 流動教官制度



2

Eラーニングを始めた理由

- 社会人大学院生の学習機会の確保
 - 大学院学際情報学府の3割が社会人
- 大学院の情報公開
 - 地域・社会に開かれた大学院へ
- 学習過程の透明化と改善
 - 学習過程の可視化と新しい相互作用

3

iii onlineの概要

- ゲスト：講義(VOD)と資料の配信
- 学生：講義(VOD)と掲示板の利用
- Eラーニングと通常の講義の併用
- 授業ごとに異なった利用形態



4

配信した講義

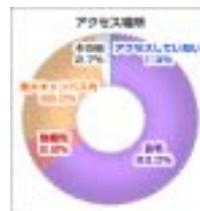
- 自然言語処理 (辻井潤一)
- コミュニケーション・システム (原島 博)
- 情報政策論 (濱田純一)
- メディア表現論 (水越 伸)



5

アクセス状況

- 自宅からのアクセスが63%
- ブロードバンド環境が67.8%



6

社会人大学院生の学習機会の確保

- 社会人大学院生の高評価
 - 時間的拘束からの解放
 - 体力的に楽
 - 効率よく学習できた
 - また受講してみたいと思う



7

大学院の情報公開

- 稼働実績 (2/20現在)
 - 107万ヒット (のべ46347人) の利用
 - 5474時間の映像配信
 - 93.5%が学外から利用
- 各授業に数百人の利用者
- 40代男性が中心
- 情報公開として一定の成果

8

学習過程の透明化と改善

- 離脱を防ぐための研究開発
- 電子掲示板のモデレーション
- 携帯電話を利用したCSCL活性化 (iTree)
- ノウハウの蓄積



9

今後の課題

- 外部からの視聴者への対応
- 出席など遠隔授業独自の問題への対応
- モデレーションに関する研究開発
- 評価などに関する教員への支援

10

eラーニング成功のためのポイント

- 技術 撮影とエンコーディング
- 学習 掲示板のコーディネーション
- 法律 著作権と人格権の問題
- 組織 教務委員会への位置づけ
- 経営 目的とメリットの明確化
- 広報 アンケートと成果発表

11

技術 撮影とエンコーディング

- 意外に手間がかかる・試行錯誤的
 - 画質より音質
- あきさせない撮影のための工夫
 - 1分から2分で画角を変える
 - ノイズも収集する
 - 文字はズームアップする
- リアルタイムエンコーディング
 - 後でエンコーディングするより経済的
 - DVでかならずバックアップをとる

12

学習 掲示板のコーディネーション

- 電子掲示板の運用は難しい
 - 書き込みがない
 - 議論が進展しない
 - 生徒と教師の対話になる
 - レポートのかたまりになる
- 日本型のモデレーションモデルが必要
 - さくらモデル 学生の自主的なモデレーション
 - 参加しない人に対してどう対処するか

13

法律 著作権と人格権の問題

- 著作権処理をきちんとする
 - できないものは公開しない（電子化するだけでだめ）
 - 公開・学内公開・非公開を柔軟に組み合わせる
- 撮影される人にはあらかじめ了承をとる

14

組織 教務委員会への位置づけ

- 組織的に展開することの難しさ
 - 個人の実験プロジェクトは容易
 - 教員を説得するのが大変
 - ◆ ビデオで撮影されたくない
 - ◆ 面倒くさいことはしたくない
- 教務委員会にワーキンググループを作る
 - 教務委員長からの正式な依頼

15

経営 目的とメリットの明確化

- 学内対象者だけではコストにみあわない
- 目的とメリットを明確化する必要
- ビジネスモデル
 - 認知度の向上（MIT）
 - 大学の連合（CCC Online）
 - 国際展開（青山学院）
 - 学位の販売（スタンフォード）
 - コンテンツ販売（早稲田・明大）

16

広報 アンケートと成果発表

- 外部からのアクセス動向をさぐる
- 学会や研究会で積極的に発表する
- 開始時・年度終了時などに記者発表する
- できれば論文にする

17